

講義要綱

1 開講科目一覧

週末スクーリング

全科目定員設定あり ◇共通開講科目

分類	分野・類	授業コード	科目名	単位数	担当者	
総合教育科目 3分野科目	人文科学分野	11815	文学	2	小倉 孝誠	
	自然科学分野	11843	数学（線形数学）	2	森藤 孝之	
総合教育科目 外国語科目		21825	英語（リーディング）A	1	高橋 宣也	
		21825	英語（リーディング）B	1	赤羽 俊昭	
		21826	英語（ライティング）1	1	吉原 学	
		21826	英語（ライティング）2	1	沢村 静	
文学部 専門教育科目	第1類	51815	社会学（専門）	2	岡原 正幸 高山 真	
		61804	◇ 哲学特殊	2	穂刈 享	
	第2類	71841	◇ 東洋史特殊	2	高橋 伸夫 上野 正弥	
		51855	フランス文学	2	築山 和也	
	経済学部 専門教育科目		61802	経済原論	2	八尾 政行
			61804	ゲーム理論	2	穂刈 享
		61834	保険学	2	神田 恵未	
		51815	◇ 社会学（専門）	2	岡原 正幸 高山 真	
		71833	◇ 政治理論	2	河野 武司	
		71841	◇ 地域研究（現代中国論）	2	高橋 伸夫 上野 正弥	
		71833	政治理論	2	河野 武司	
法学部 専門教育科目		71841	地域研究（現代中国論）	2	高橋 伸夫 上野 正弥	
		51815	◇ 社会学（専門）	2	岡原 正幸 高山 真	
		61802	◇ 経済原論	2	八尾 政行	
		61804	◇ ゲーム理論	2	穂刈 享	
		61834	◇ 保険学	2	神田 恵未	

大阪（週末）スクーリング

分類	分野・類	授業コード	科目名	単位数	担当者
経済学部 専門教育科目		71809	◇ 刑法	2	佐藤 拓磨
法学部 専門教育科目		71809	刑法	2	佐藤 拓磨



- 講義要綱には、絶版もしくは品切れとなった参考書も記載してあります。これは、「その参考書が学習上有益である。」と担当者が判断したものです。可能な範囲で図書館などで捜して学習することをお勧めします。
- 講義要綱記載の指定テキストは、変更になる場合があります。『ニューズレター慶應通信』『週末スクーリング掲示板』で順次発表しますので、確認してください。
- 開講科目の中には、授業時間外にパソコンの使用を想定しているものがあります。その場合は、担当教員より授業時に指示があります。

2 総合教育科目

科目 文学

2単位

担当 文学部教授 小倉孝誠

文学はそれが書かれた時代と社会を映し出すという側面を持っている。文学が時代の鏡と言われるのは、そのためである。この講義では主に近代フランス文学を文化史的に読み解くことで、人々の表象体系と心性に迫ってみたい。18世紀～20世紀の作家を対象にして、具体的な主題としては次の3つを取り上げる予定である。(1) 愛の物語：古今、文学の永遠のテーマである愛はどのように語られてきたか。(2) パリを読む：19世紀以降、なぜパリはしばしば語られてきたか。(3) 文学と旅：「旅行記」の誕生を跡づけ、風景の発見、自然の認識、オリエンタリズムとの関わりを探る。

特定の作家論、作品論ではなく、一定のテーマに沿って複数の作家や流派を横断的に読み解く方法を習得する。また文化史的な背景を知ること、それまで気づかなかった文学の裏のようなものを解きほぐし、文学がはらむ多様な主題系に目を向けられるようにする。

- 〔第1回〕 愛の物語 (1) 出会い
- 〔第2回〕 愛の物語 (2) 告白と手紙
- 〔第3回〕 愛の物語 (3) 誘惑と嫉妬
- 〔第4回〕 愛の物語 (4) 別れと死
- 〔第5回〕 愛の物語 (5) 娼婦の恋、不倫の恋
- 〔第6回〕 パリを読む (1) 近代におけるパリの変貌
- 〔第7回〕 パリを読む (2) 愛と野心の空間
- 〔第8回〕 パリを読む (3) 歴史の舞台としてのパリ
- 〔第9回〕 パリを読む (4) 文学・絵画・映画
- 〔第10回〕 文学と旅 (1) 風景の発見
- 〔第11回〕 文学と旅 (2) 東方紀行の系譜
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

1、愛の物語

- ・上村くに子・西川祐子 (編) 『フランス文学／男と女と』 (勁草書房、1991年)
- ・小倉孝誠 『愛の情景—出会いから別れまでを読み解く』 (中央公論新社、2011年)
- ・小倉孝誠 『恋するフランス文学』 (慶應義塾大学出版会、2012年)
- ・工藤庸子 『フランス恋愛小説論』 (岩波新書、1998年)

2、パリを読む

- ・饗庭孝男 (編) 『パリ 歴史の風景』 (山川出版社、1997年)
 - ・石井洋二郎 『パリ 都市の記憶を探る』 (ちくま新書、1997年)
 - ・小倉孝誠 『パリとセーヌ川』 (中公新書、2008年)
- ### 3、文学と旅
- ・石井洋二郎 『異郷の誘惑』 (東京大学出版会、2009年)
 - ・小倉孝誠 『近代フランスの誘惑 物語・表象・オリエンタ』 (慶應義塾大学出版会、2006年)
 - ・エドワード・サイード 『オリエンタリズム』 (今沢紀子訳、平凡社、1986年)

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 数学 (線形数学)

2単位

担当 経済学部教授 森藤孝之

行列の演算、連立1次方程式の理論、行列式について解説します。線形数学を学ぶとき、自習では理解するのが難しい概念がいくつか出てきます。その概念の意味づけと大切さを理解できるよう講義します。

- 〔第1回〕 平面のベクトルと内積
- 〔第2回〕 行列の和・差とスカラー一倍
- 〔第3回〕 行列の積
- 〔第4回〕 連立1次方程式と行列
- 〔第5回〕 行列の基本変形
- 〔第6回〕 前半の総括
- 〔第7回〕 連立1次方程式の解法
- 〔第8回〕 逆行列と正則行列
- 〔第9回〕 行列式の定義
- 〔第10回〕 行列式の性質
- 〔第11回〕 余因子行列とクラメル公式
- 〔第12回〕 後半の総括
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

- ・三宅敏恒 『線形代数 例とポイント』 (培風館、2010年) ISBN978-4-563-00389-0

◆受講上の要望または受講上の前提条件

高校2年生のレベルまでの数学をしっかりと学んでいること。

◆成績評価方法

講義内に実施する試験による。

科目 英語（リーディング）A

1単位

担当 文学部教授 高橋宣也

テキストは、英語の単語の由来を訪ねる内容です。章ごとに一つの単語が扱われ、今では何気なく用いられている語が、どのような経緯で現代のような意味や用法となったのかをたどります。簡明な説明を正確に読む訓練を行います。また同時に、テキストの内容から英語そのものへの興味も増加することを期待します。

- 〔第1回〕 第12章
- 〔第2回〕 第13章
- 〔第3回〕 第14章
- 〔第4回〕 第15章
- 〔第5回〕 第16章
- 〔第6回〕 第17章
- 〔第7回〕 第18章
- 〔第8回〕 第19章
- 〔第9回〕 第20章
- 〔第10回〕 第21章
- 〔第11回〕 第22章
- 〔第12回〕 質疑応答・試験

◆テキスト

・Isaac Asimov 『Words from History I (『英単語のロマンスI [改訂版]』)』(鷹書房弓プレス)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

テキストの英語は比較的平易ですが、細部をおろそかにせずにきちんとした読解を目指しますので、綿密な予習が必要です。練習問題（1番～3番）もやってきてください。なお、第12章‘Gentleman’から始まりますので、気をつけてください。また、講義内容の予定は進行の目安です。

◆成績評価方法

平常の出席と授業時の成果、試験で評価します。

科目 英語（リーディング）B

1単位

担当 講師 赤羽俊昭

様々な英文を音読し和訳してもらいます。映像や音声を利用できる英文を読む場合は、それを活用するつもりです。

- 〔第1回〕 2016年に新しい形式となったTOEICのReading Sectionの問題に挑戦しましょう。教材は教員がプリントにして当日配布しますが、辞書を使わなくても良いように注釈を付けておきます。予習は不要です。
- 〔第2回〕 英語のニュース放送の聴取と読解に挑戦しましょう。教材は最近のCNN 10で放送されたニュースを予定しています。まず映像を見て音声を聞きながら、内容を大まかに把握してもらいます。そのあと、放送された英語原稿に注釈をつけたプリントを配布し、受講者の皆さんを指名して、その場で音読と訳読をしてもらいます。予習は不要です。最後に和訳のプリントを配布します。

〔第3回〕 英語のプレゼンテーションの聴取と読解に挑戦してもらいます。教材は最近のTEDで取り上げられたプレゼンテーションを取り上げる予定です。やり方は【第2回】と同じです。プリントには注釈をつけておきます。予習は不要です。

〔第4回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。また、この授業中に、次回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。

〔第5回〕 事前に配布しておいた英語新聞の報道記事の読解に挑戦してもらいます。今年のThe Japan Timesに掲載された日本関連の記事を、段落1つずつに割り当てられた担当者に、音読と和訳をしてもらいながら授業を進めます。今回と【第6回】の2回に分けて読んでいく予定です。

〔第6回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。また、この授業中に、次回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。

〔第7回〕 今回も英語新聞を読みますが、記事はThe New York Timesを使用します。やり方は前回までの講読と同じです。

〔第8回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。また、この授業中に、次回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。

〔第9回〕 今回は英語雑誌のThe Economistの記事をこれまでと同じやり方で読んでいきます。今年の日本の社会現象を取り上げた記事を読む予定です。

〔第10回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。また、この授業中に、次回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。

〔第11回〕 今回は近年出版された英語の書籍の一部を読みます。日本在住の作家Baye McNeil氏の文章を読む予定です。受講者全員に発表してもらえない場合は、授業終了時に和訳をレポートという形で提出してもらいます。

〔第12回〕 総括として、【第2回】から【第10回】までの教材の理解度をはかるため、筆記試験を行います。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

CNN10については知りたい方は、<https://edition.cnn.com/cnn10>か、これを日本で放送しているNHK・BS (<http://www6.nhk.or.jp/kokusaihoudou/cnnsn/index.html>) を参照してください。TEDについて知りたい方は、<https://www.ted.com/>を参照してください。

同じ講師が担当する「夜間スクーリング」とは違う英文を扱います。

◆成績評価方法

授業時の英文の読解力(30点満点)と最終日の試験結果(70点満点)に基づいて決定します。

科目 英語(ライティング) 1

1 単位

担当 講師 吉原 学

センテンス・レベルのライティングのコースです。このコースには2つの目的があります。第1の目的は、英作文(センテンス・レベル)の練習を通して正確な文を書けるようになることです。きちんとした文を書けるようになれば、きちんとした英語を話せるようになれる。第2の目的は、センテンス・レベルのライティングの練習を通して英語における情報の伝達の仕方(語順)、文法、そして語法(語の使い方)を習得することです。これらの知識なしでは正確な文を書くことはできません。今回は、以下の5つの重要文法事項に焦点をあて学習します。

授業はペアもしくはグループを作って、受講生同士が意見交換をしながら力を付けていくようにします。みなさんが主役のコースです。

〔第1回〕オリエンテーション&時のコントロール

(時制) ①

〔第2回〕時のコントロール(時制) ②

〔第3回〕時のコントロール(時制) ③

〔第4回〕時のコントロール(時制) ④

〔第5回〕機能表現(助動詞) ①

〔第6回〕機能表現(助動詞) ②

〔第7回〕名詞&冠詞

〔第8回〕後置修飾①

〔第9回〕後置修飾②

〔第10回〕接続詞①

〔第11回〕接続詞②

〔第12回〕総括/ファイナルテスト

◆テキスト

プリント教材

◆受講上の要望または受講上の前提条件

学習効果を高めるために、事前準備として「いいずな書店」が無料で提供している『【MEW Core 500】コア解説動画』の動画1~74までを見て、基本動詞、前置詞のコアを確認しておいてください。

URL:https://www.youtube.com/playlist?list=PLI9V6ssotJDXRKVa1YxHrW8G_2KcZ8Cup

◆成績評価方法

成績は、次の基準でつけられます。出席率・授業参

加・積極性(40%)、ファイナルテスト(60%)。

また、正当な理由のない欠席が4回以上になった場合または過度の遅刻がある場合、成績がつけられなくなります。また、5分以上の遅刻3回で1回の欠席となります。

科目 英語(ライティング) 2

1 単位

担当 講師 沢村 静

このクラスでは、基本的な英作文からパラグラフライティングの基本構造を理解した正しい文章を書けることを目指します。自己紹介から説明書、物語文など各テーマについて筋道立てて自己表現するための技術を学びましょう。文章の理論構成、展開法を理解するとともに、その基礎となる文法事項を復習し、語彙を強化していきます。

〔第1回〕 Chapter 1 : Introduction 定義の仕方

〔第2回〕 Chapter 2 : トピック文の書き方

〔第3回〕 Chapter 3 : 時系列的なサポート文の書き方

〔第4回〕 Chapter 4 : 手順や手続きを説明するサポート文の書き方

〔第5回〕 Chapter 5 : 例示・列挙のサポート文の書き方

〔第6回〕 Chapter 6 : 原因と結果のサポート文の書き方

〔第7回〕 Chapter 7 : 比較・対照のサポート文の書き方

〔第8回〕 Chapter 8 : 分類のサポート文の書き方

〔第9回〕 Chapter 9 : 前置詞の概念とイメージについて

〔第10回〕 Chapter 10 : 形容詞の種類、関係副詞について

〔第11回〕 Chapter 11 : 分詞・分詞構文について

〔第12回〕 総括

〔その他〕 小テスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎回辞書を必ず持参してください。予習、復習を前提で授業を進めます。アクティビティやディスカッションを多く取り入れますので、他学生と積極的に関わりながら授業に参加することを期待します。また、各課ごとの課題提出は必須です。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

3 文学部専門教育科目

科目 社会学（専門）

2単位

担当 文学部教授 岡原正幸 / 講師 高山 真

「生と感情の社会学」をアートベース・リサーチという手法で受講者と一緒に作り出します。

たとえば社会学の基本の1つである社会調査、否応なく人と関わるこの学的な営みを、どこに位置づけ、その営みの中で自らをどこに位置づけていくのか、対象を客観化する知が、ただそれだけ評価されるような時代は過ぎ去り、いまや、知の生産と消費を担ってきた大学アカデミズムも現代社会に立ち位置を失いつつある。学問の死を謳うのはたやすい、しかしだからこそ、社会学という営みを再び肯定的に捉える視角が必要ではないのか。生の社会学とは、生を社会的に説明する営みに還元されるようなものではなく、生きられる社会学であり、生きることを生きようとする、そんな試みだと考えてほしいです。

生の多様性をめぐる議論があるとして、それを、いかに自分が生きるのかという問いに、どのように結びつけることができるのだろうか。この授業で参加者と一緒に僕たちが考えてみたいのは、これである。具体的にどうするのかといえば、僕らが教卓に座って講義することはまずない。全員が全員に向けて講義することはまずない。全員が全員に向けて講義をする。受講者は他の受講者にとってのゲストスピーカーになり得るということである。生を生きるという資格においてひとりひとりの参加者がゲスト講師たりえるのである。チームに分かれてライフストーリーを互いに聞き、中からいくつかの生を他の受講者に伝える試みとなる。

この伝える試みとして、アートを利用した社会学実践を行う。アートベース・リサーチと呼ばれ、多種多様なアートワークが利用されるが、ここでは身体的な演劇的な手法を用いる（パフォーマンス・エスノグラフィ）。さらに、詩や文学、映像や音楽なども利用する。

自分が話を聞いて、その人の経験をなぞるといふ実験的で重要な試みとなる。

〔第1回〕 授業全体の構想について、チーム編成

〔第2回〕 自分史のシェア

〔第3回〕 ライフストーリーとは、アートベース・リサーチとは

〔第4回～第9回〕 チーム活動

〔第10回〕 リハーサル

〔第11回～第12回〕 プレゼンテーション（北館ホールにて各チーム1回公演）

授業に関する情報は下記のホームページで

<http://lebenssoziologie.jimdo.com>

◆テキスト

・岡原正幸・小倉康嗣他『感情を生きる』（慶應義塾大学出版会、2014年）

ISBN978-4-7664-2123-1

・岡原正幸『感情資本主義に生まれて』（慶應義塾大学出版会、2013年）

ISBN978-4-7664-2042-5

◆参考文献

・岡原正幸他『生の技法〔第3版〕一家と施設を出て暮らす障害者の社会学』（生活書院、2013年）

・岡原正幸『ホモ・アフェクトス』（世界思想社、1998年）

・高山真『〈被爆者〉になる』（せりか書房、2016年）
ISBN978-4-7967-0353-6

◆受講上の要望または受講上の前提条件

自分の生について語ることが求められるでしょう。

また他者の生について傾聴し、一緒に考えることも求められるでしょう。事前に、自分史や家族史、自分が生きてきた中での特定の記憶や体験について、3000字～5000字程度でまとめておいてください。書式や用紙は自由です。この課題は授業初回に持参してください。それを土台に皆さんのスピーチを作成してもらいます。また言うまでもありませんが、受講者間でのやりとり、授業内でのやりとりが個人的なものに関わる以上、当事者の了承なくして外部に公開することは避けてください。

夏期スクーリングと今年度週末スクーリングの内容は基本的に同じです。受講者の数を抽選で週末スクーリングは80名以下に絞ります。両方の授業を同一年度に履修することはできません。

◆成績評価方法

試験は行いません。出席によって評価します。

チーム活動への影響が大きくなるような欠席回数は成績に大きく響きます。

科目 フランス文学

2単位

担当 文学部教授 築山和也

詩人ランボーといえば、その波乱にとんだ生涯がとりわけ注目されます。度重なる家出、ヴェルレーヌとの抜き差しならぬ関係、天才の名を恣にしながらの詩作の放棄、アフリカ奥地での行商。詩人の人生を彩るそうした出来事を時代背景に照らし合わせながら検討することは、それ自体興味深いことです。しかし、それ以上に重要なのはランボーが書いた詩や手紙に真摯に向き合って、それを可能なかぎり繊細に読むことだと思います。この授業では、翻訳で読むという制約はありますが、その実践を試みます。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 ドゥエ詩帖（1）

〔第3回〕 ドゥエ詩帖（2）

〔第4回〕 「見者の手紙」

〔第5回〕 「酔っぱらった船」

〔第6回〕 後期韻文詩（1）

〔第7回〕 後期韻文詩（2）

〔第8回〕 『地獄の季節』（1）

〔第9回〕 『地獄の季節』（2）

〔第10回〕 『イリュミナシオン』（1）

〔第11回〕 『イリュミナシオン』（2）

〔第12回〕 試験および総括

2018年度週末スクーリング

◆テキスト

・宇佐美齊訳『ランボー全詩集』(ちくま文庫、1996年)
ISBN978-4480031648

◆受講上の要望または受講上の前提条件

ランボーの作品については、すべて翻訳を使用します。ただし、必要に応じてフランス語の原文と対照さ

せることもあります。フランス語の学習は必須ではありませんが、多少でも心得があったほうが理解は進むでしょう。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

【第1類に属する科目】

科目 哲学特殊 2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

経済学部専門教育科目「ゲーム理論」(33頁)を参照してください。

【第2類に属する科目】

科目 東洋史特殊 2単位

担当 法学部教授 高橋伸夫/講師 上野正弥

法学部専門教育科目「地域研究(現代中国論)」(35頁)を参照してください。

4 経済学部専門教育科目

科目 経済原論

2 単位

担当 講師 八尾政行

「経済」という現象に対し、経済学にもとめられる役割は、実践的に発生した問題を解決するということと、問題が発生する原因を理論的に解明するというところにある。本講義においては経済学の理論分析について、その入門的な内容を解説することを目的とする。

現代の経済学は、全体を俯瞰する視点に基づくマクロ経済学と、消費者、生産者といった経済の構成員の視点をもととしたミクロ経済学に大別される。マクロ経済学、ミクロ経済学は相補的な関係にあり、双方をよく理解することが重要である。

〔第1回〕 導入

〔第2回〕 マクロ経済学: 経済の活動水準

〔第3回〕 マクロ経済学: 財市場とIS曲線

〔第4回〕 マクロ経済学: 金融市場とLM曲線、IS-LM分析

〔第5回〕 ミクロ経済学: 消費者理論(1)

〔第6回〕 ミクロ経済学: 消費者理論(2)

〔第7回〕 ミクロ経済学: 生産者理論

〔第8回〕 ミクロ経済学: 市場分析

〔第9回〕 ミクロ経済学: 独占市場

〔第10回〕 ミクロ経済学: ゲーム理論の基礎と寡占市場

〔第11回〕 マクロ経済学: 合理的バブルの理論

〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

さらに進んだ学習のための参考文献は各回に配布するプリントに記載する。

特に前提となる知識はないが、微分についての知識があると講義をよりよく理解できる。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 ゲーム理論

2 単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

この授業ではゲーム理論(非協力ゲーム)の基本的な考え方を学びます。

〔第1回〕・ゲームの表

・「守られる口約束」としてのナッシュ均衡

〔第2回〕・ゲーム・ツリーにおける「戦略」と部分ゲーム完全均衡

・選択枝が多いほうがいいですか？

〔第3回〕・赤いぼうしのパズルと possible worlds model

・百足ゲームと合理性のパラドックス

・1万円札を燃やすという選択枝があると…

〔第4回〕・ゲーム・ツリーにおける「情報集合」と「戦略」

・「信念」と完全ベイジアン均衡

・情報は多いほうがいいですか？

〔第5回〕 全く同じ製品を生産する2つの企業による数量競争(同時手番の場合と先手・後手がある場合)

〔第6回〕 全く同じではないが代替的な製品を生産する2つの企業による価格競争(同時手番の場合と先手・後手がある場合)

〔第7回〕 「囚人のジレンマ」と繰り返しゲーム

〔第8回〕 「フリーライダー問題」と繰り返しゲーム

〔第9回〕 参入阻止ゲーム

〔第10回〕 セカンド・プライス・オークション

〔第11回〕 ペア決めマッチング問題

〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・H. ギンタス『ゲーム理論による社会科学の統合』(NTT出版、2011年)

・E. ラスムセン『ゲームと情報の経済分析(基礎編)』(九州大学出版会、2010年)

・A. ディクシット & B. ネイルバフ『戦略的思考をどう実践するか』(阪急コミュニケーションズ、2010年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

微分と積分は使いません。

◆成績評価方法

最終日の試験による

科目 保険学

2 単位

担当 講師 神田恵未※

保険制度は、社会に存在する多種多様なリスクに備えて経済的保障を提供する経済制度として、既に私たちの生活に深く浸透している。本講義では、保険制度が、現実社会の中でいかなる仕組みや原理に基づいて、社会的あるいは経済的機能を果たしているのかを理解することを目的とする。主な講義内容および順序は、以下の通りである。

〔第1回〕 保険の歴史

〔第2回〕 保険の基本理論

〔第3回〕 保険の基本原則

〔第4回〕 保険の構造

〔第5回〕 保険の機能

〔第6回〕 保険とリスク

〔第7回〕 保険と金融

〔第8回〕 保険と経営

〔第9回〕 保険と政策

〔第10回〕 保険と社会

〔第11回〕 特別講義(中国保険市場の成長と課題)

〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

2018年度週末スクーリング

◆参考文献

- ・堀田一吉『保険理論と保険政策—原理と機能』（東洋経済新報社、2003年）
- ・堀田一吉他編著『保険進化と保険事業』（慶應義塾大学出版会、2006年）
- ・田畑康人・岡村国和編著『人口減少時代の保険業』（慶應義塾大学出版会、2011年）
- ・下和田功編『はじめて学ぶリスクと保険〔第4版〕』（有斐閣、2014年）

- ・近見正彦他『新・保険学』（有斐閣アルマ、2006年）
- ・近見正彦他編『保険学』（有斐閣、2011年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。試験は、講義で話した内容を中心に出題する予定であるので、できる限り授業には出席するよう心がけてください。

◆成績評価方法

課題レポートおよび講義最終日試験の成績による。
※2014年度まで担当の塔林図雅講師と同一人物です。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、経済学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

科目 社会学（専門） 2単位

担当 文学部教授 岡原正幸 / 講師 高山 真

文学部専門教育科目「社会学（専門）」（31頁）を参照してください。

科目 政治理論 2単位

担当 法学部教授 河野武司

法学部専門教育科目「政治理論」（35頁）を参照してください。

科目 地域研究（現代中国論） 2単位

担当 法学部教授 高橋伸夫 / 講師 上野正弥

法学部専門教育科目「地域研究（現代中国論）」（35頁）を参照してください。

5 法学部専門教育科目

科目 政治理論

2 単位

担当 法学部教授 河野武司

本講義の目的は、現代政治学が政治現象を理解するために、理論という道具をどのように活用してきたかを概観し、問題設定と分析を行うプロセスを理解することにあります。講義の前半では、規範や理想について対象とする規範的政治理論との対比を通して、現実を分析の対象とする科学としての政治学における理論(実証的政治理論)のあり方を解説します。後半では市民の政治参加や代議制民主主義の作動に関する主要な概念と理論について、最近の研究や具体的な事例を踏まえながら考察します。具体的には、以下のような計画に沿って進めます。なお、以下の講義計画は暫定的なものであり、順序や内容について若干の変更がある場合もあります。

- [第1回] 伝統的政治学から現代政治学へ転換
科学としての政治学の追求の歴史
- [第2回] 科学としての政治学と理論の役割
規範的政治理論(理想)と実証的政治理論(現実)の相互補完性
- [第3回] 科学的な研究の手順と信頼性・妥当性
リサーチプロセスの循環的な8段階
①問題意識、②既存研究の確認、③仮説構築、④仮説中の概念の操作化、⑤研究のデザイン、⑥データの収集、⑦分析、⑧理論化
- [第4回] 政治理論と合理的選択アプローチ
現代の政治学において一つのパラダイムとなった合理的選択アプローチとは何か
→利己心と最大化行動、利他主義
- [第5回] 市民の投票参加をどのように説明するか
期待効用モデル(投票参加の計算式)とミニマックスリグレットモデル
- [第6回] 市民の投票方向の決定をどのように説明するのか①
コロンビア学派(社会学的分析)
- [第7回] 市民の投票方向の決定をどのように説明するのか②
ミシガン学派(心理学的分析)と合理的選択
- [第8回] 利益団体の政治的影響力をどのように説明するのか①
利益団体自由主義、コーポラティズム、利益の組織化と副産物理論
- [第9回] 利益団体の政治的影響力をどのように説明するのか②
政治的企業家と政治的交換関係
- [第10回] 代議制民主主義は失敗するという神話の理論的検討①
A. ダウンズの命題「政策における反消費者・生産者支持の偏向」
→政治過程に参加する各アクターが合理的だから失敗する
- [第11回] 代議制民主主義は失敗するという神話の理論的検討②

D. ウィットマンによるダウンズに対する批判
→政治過程に参加する各アクターが合理的だからこそ機能する

A. カプランによるウィットマンに対する批判
→市民は合理的な非合理性を有するから代議制民主主義は失敗する

〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

特に指定しません。

◆参考文献

授業中に適宜紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

要領よく講義内容をまとめたノートを作成し、それを自分自身の教科書としてください。

◆成績評価方法

最終日の試験によります。

科目 地域研究(現代中国論)

2 単位

担当 法学部教授 高橋伸夫 / 講師 上野正弥

21世紀は「中国の世紀」として記憶されることになるかもしれない。中国が抱える巨大な人口と市場、地球環境に与える大きな負荷、そして強大な軍事力などからして、それがわれわれにとって重要な意味を持つ存在であることは疑いない。いまや、中国関連の記事が新聞紙面に登場しない日があるだろうか。Made in Chinaと記された製品なしに、私たちは暮らしてゆけるだろうか。そして、中国人の旺盛な購買意欲に頼ることなしに、日本経済は成長できるのだろうか。答えはいずれも「ノー」である。したがって、私たちは、好むと好まざるとにかかわらず、この大国について理解し、それと付き合う方途を見出すよう迫られているのである。

とはいえ、われわれの外にあるひとつの社会を全体として把握することは難しい。というより、そうしたことはほとんど不可能である。ゆえに、われわれは自分が暮らす社会以外の社会を観察する際には(いや、自分たちの社会を観察する場合でさえ)、自分たちの視野が、つねに限られたものであることを自覚しておくべきである。

この講義では、主として政治学と歴史学という限定された角度から、現代中国に接近するであろう。具体的には、以下のような問題を念頭に置いている。

- (1) 中国はどのような道を進んで現在われわれが見ているような姿になったのだろうか。革命は伝統中国の何を変え、何を変えなかったのだろうか。
- (2) 政治的にみた場合、現在の中国はどのような特徴を備えているのだろうか。他の国々と比較してみると、何がユニークなのか。
- (3) 中国の社会は、共産党による一党独裁のもとで、現在どのような変化を遂げつつあるのだろうか。
- (4) 中国の他国に対する態度には、何か特別な要素があるだろうか。そして、私たちはこの大国とどのように接していくべきなのか。

2018年度週末スクーリング

(5) この国は将来、政治的にどのような変化を遂げる可能性があるだろうか。中国共産党の生命力はどの程度強いのだろうか。中国は革命を通じて、あるいはもっと穏やかな方法を通じて民主化するのだろうか。それとも、たんなる大混乱が待ち受けているのだろうか。

講義全体を通じて、受講者自身が現代中国に関して、多少なりとも体系的なイメージを組み立てられるようにすることが目的である。

- 〔第1回〕 イントロダクションー現代中国研究案内 (担当：高橋)
〔第2回〕 伝統中国の遺産 (担当：高橋)
〔第3回〕 現代中国の歴史 (1) (担当：上野)
〔第4回〕 現代中国の歴史 (2) (担当：上野)

- 〔第5回〕 現代中国の政治体制 (1) (担当：高橋)
〔第6回〕 現代中国の政治体制 (2) (担当：高橋)
〔第7回〕 現代中国の国家と社会 (1) (担当：上野)
〔第8回〕 現代中国の国家と社会 (2) (担当：上野)
〔第9回〕 現代中国のナショナリズム (担当：高橋)
〔第10回〕 中国に再び革命は起こるか? (担当：高橋)
〔第11回〕 戦後日中関係の歴史 (担当：上野)
〔第12回〕 総括 (担当：上野)

◆テキスト

・高橋伸夫『現代中国政治研究ハンドブック』(慶應義塾大学出版会、2015年) ISBN978-4-7664-2209-2

◆成績評価方法

最終日の試験による。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

科目 社会学 (専門) 2単位

担当 文学部教授 岡原正幸 / 講師 高山 真

文学部専門教育科目「社会学 (専門)」(31頁)を参照してください。

科目 経済原論 2単位

担当 講師 八尾政行

経済学部専門教育科目「経済原論」(33頁)を参照してください。

科目 ゲーム理論 2単位

担当 経済学部教授 穂刈 亨

経済学部専門教育科目「ゲーム理論」(33頁)を参照してください。

科目 保険学 2単位

担当 講師 神田恵未

経済学部専門教育科目「保険学」(33頁)を参照してください。

6

2018年度大阪 (週末) スクーリング

法学部専門教育科目・経済学部専門教育科目

科目 刑法 2単位

担当 法学部教授 佐藤拓磨

指定教科書は、刑法総論・各論の重要概念について、見開き2頁で解説したものです。本講義では、刑法総論について特に重要なものを取り上げ、学説および判例に関する情報を補充しつつ、講義します(授業の進度は、状況によって変化する可能性があります)。

〔授業の概要〕

- 〔第1回〕 刑罰の理論、罪刑法定主義、犯罪論の体系
〔第2回〕 条件関係、被害者・第三者の行為の介在と因果関係
〔第3回〕 故意概念、具体的事実の錯誤、抽象的事実の錯誤
〔第4回〕 正当防衛 (急迫不正の侵害、防衛の意思)
〔第5回〕 正当防衛 (防衛行為の相当性、過剰防衛)
〔第6回〕 実行の着手、不能犯、中止犯
〔第7回〕 正犯と共犯、間接正犯、共犯の処罰根拠

- 〔第8回〕 共同正犯、共謀の意義、共謀の射程
〔第9回〕 承継的共犯、共犯関係の解消
〔第10回〕 不作為の共犯
〔第11回〕 罪数論
〔第12回〕 総括・まとめ

◆テキスト

・井田良ほか『よくわかる刑法 第3版』(ミネルヴァ書房、2018年4月刊行予定)

◆参考文献

・西田典之ほか『判例刑法総論 第6版』(有斐閣、2013年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

本講義では、テキストに加えて配布資料を用い、短期間のうちに相当量の情報を提供しますので、事前に指定教科書の該当部分を一読しておくことをお勧めします。

◆成績評価方法

最終日の試験による。